

# GREEN UP！/自然と文化 驚異の旅 in 秋田 2015

MV 東北秋田緑の少年団 佐藤 胡春 石川 瑞葵  
三浦 葉杜美 熊谷 歩未  
佐藤 晴花 櫻田 笑里  
三浦 幸 ○小山 澄子

## 1. はじめに

緑の少年団は学校単位もしくは地域単位で結成されていて、秋田県内ではほとんど学校単位で結成されています。児童生徒の減少やそれに伴う団数・団員数は減少傾向にあります。また学校ではスポーツ少年団などの課外活動の多様化等もあり、緑の少年団の活動は有名無実化しています。一方最近では、学校での知識教育だけでなく、地域活動や体験活動を通じた教育も注目されてきています。

そこで、「緑の募金」や「緑の交流会」に毎年参加している「こどもエコクラブ」を母体とした、緑の少年団を結成し、森林環境教育等を試みました。

## 2. 組織の概略

- ▶ メンバー構成・・・小学生、幼児（3歳以上）約40名
- ▶ 地域・・・・・・・・秋田市内（土崎、外旭川、広面、桜）、横手市等
- ▶ 活動回数・・・・・・・・5回+α
- ▶ 活動場所・・・・・・・・秋田県内
- ▶ 育成会・・・・・・・・メンバーの保護者を中心に約20名（代表：小山澄子）
- ▶ 支援・・・・・・・・秋田県緑化推進委員会、MV東北、他

## 3. 活動の目的および手段

- ▶ 「教育」ということを前面に出さない
- ▶ 「遊び」ながら「学びとる」子どもの育成
- ▶ 学校という「枠」から抜け出して、多種多様な活動
- ▶ 様々な専門家（企業、行政、大学、大学生、研究所、自然観察指導員、環境教育指導者等）との連携・支援保護者の理解と協力
- ▶ 企業・行政等による活動助成金

## 4. 「驚異の旅」～活動体験

秋田の歴史や文化、自然と時間の流れ、技術や素材を生かした先人の知恵、新技術の利用、同性代との交流など、小学生ならではの視点で感じ、学んだ正に「驚異の旅」です。自然も文化も豊かな「秋田」がますます好きになったようです。

サイコロを転がし、ワクワクドキドキしながら、一緒に旅を楽しんでみましょう！



ていないか？歩くところは危なくないかなど、日々見守っている人たちがいることも知りました。自然を守るためには、やっぱり人の力が必要だと分かりました。

### 武士の内職を体験せよ！（大館市）

「大館曲げわっぱ」は江戸時代に「武士の内職」として広めたことから始まったそうです。「曲げわっぱ」は「天然秋田杉」の特性を生かして考えられたものですが、天然秋田杉が少なくなり、伐採できなくなりました。そこで、秋田県や秋田県立大学などと協力して人工杉を使う研究を進めています。天然杉と人工杉を見分けるのも難しそうです。天然杉の特徴を生かしたモノづくりを考えた昔の人って、すごいなと思いました。



体験工房に入ったとたん、杉の香りがいっぱいして、お母さんたちは大喜びでした。何も作らなくてもこの杉の匂いだけで幸せになったようでした。作るときには大変苦労しましたが、出来上がった時は、とても達成感がありました。

自分で作った「曲げわっぱのパン皿」のせたパンはいつもより、美味しく感じました。不思議だなと思いました。

木の器の良さと秋田の自然を守りながら、自然のものを利用した伝統工芸と生活の道具が結びついた素晴らしさを教えてもらいました。



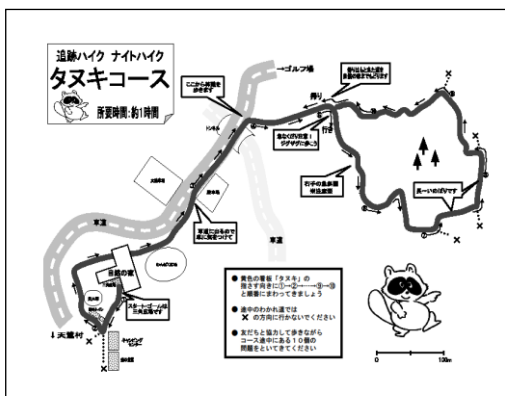
### 耳を澄ませ！力を合わせ！（由利本荘市）

今年の緑の交流会には県内だけでなく、福島県の緑の少年団も参加して、楽しくいっぱい遊びました。

岩城少年自然の家で、1日目は道川海岸で、地引網、夜は自分たちで作ったランタンに「ろうそく」で火



を灯して、ナイトハイク（狸コース）に出かけました。暗いところを歩いて、森の探検です。スズムシやコウロギはもちろん普段家のまわりでは聞くことができない虫の鳴き声も聞こえて、自然の大切さを改めて知りました。森や木とのふれあいが深まっていると



感じました。

ナイトハイクは足元が暗くて見えないので、みんなで作ったランタンで足元を明るくして見やすくしたら、歩きやすくなりました。暗いところを歩くのは、リーダーが「ここ、気を付けて」など、声をかけてくれたので、みんなは安心して歩くことができました。森の中では、みんなと協力することが必要だと思いました。

また、見えないことの不自由さを知ることができました。

福島のお友達からは、「**起き上がりこぼし**」をお土産にもらいました。会津地方に古くから伝わる縁起物で、郷土玩具だそうです。地域に伝わる伝統工芸を大切にしていることを知りました。大事にします。

### 「鳥海山の不思議と出会う！」(にかほ市)

鳥海山の雪解け水が**80年以上**もかかって湧き出ています。pH4.4~4.6位、水温は7度~8度で、水の量も水の温度も年間をとおしてだいたい同じです。世界一大きい「**鳥海マリモ**」は酸性の水のため、周りには世界的にも素晴らしいとても大きな「マリモ」が生息しています。緑のコケのついたような固まりが「**鳥海マリモ**」です。水量がやや落ちる夏場はよく見えるようです。酸性の水の中でも、枯れないで、生き続ける**マリモ**がとても不思議に感じました。このほかにも似たようなコケがあるのか？何故枯れないのか？もっと調べていき、p hも自分たちで計って確認したいです。



それにしても暑かったので、湧き水は歩いてきて熱くなった顔や手を冷たくしてくれました。とても気持ちがよかったです。誰かが「何分手を付けていられるかな？」と言ったので、皆で、競争しました。1分30秒が限界でした。それはもう、手の感覚がなくなってしまいました。8月21日午前11時の水温は10℃でした。

### 「企業秘密を解明せよ！」(大仙市)

ツリークライミングをするときは、最初と最後に木に感謝の気持ちを伝えました。すごく大切なことを教えてもらいました。遊んだり、楽しんだり、食べたり、飲んだりしたら、感謝すること。「いただきます」の感謝だけではなく、色々なことに感謝する気持ちを持つことが大切だと分かりました。





120歳くらいの大きい「ケヤキ」が10人の人を支えました。自分の足と腕の力、それにロープや金具の操作で、自分一人の力で「のぼりおり」しました。大変だったけれど、ぎりぎり枝近くまでのぼれました。上から見た景色はいつもとは全

く違い、遠くまで、はっきり見えて、優越感を得ました。またやってみたいな！と思っています。

今回初めて体験して疑問が浮かびました。それは「どうやって、木の枝にロープをつりさげることができたのか？」ということです。聞いてみたら、「企業秘密」だそうです。「ドローンでロープをつるすことができたらいいな」と言っていました！



できるのかな？できたらいいな？と私も思いました。

#### まとめ

- 森は自然だけでなく、遊びをもたらしてくれます。
- 木は暮らしの道具になります。
- 森の恵みは命をつないでいます。
- 自然の力の大きさがすごいです。
- 森は地球温暖化防止になります。
- これからも秋田の驚異の旅を続けます。

・・・・・・・・以上、発表から・・・・・・・・

## 5. 成果と課題

自然の中や何かと向き合っている何気ない、子供たちの笑顔がたくさん見る事ができました。子供たちが見て、感じて、考える、アクティブラーニングの継続と必要性を感じました。

資金援助により、活動の幅や保護者の負担軽減につながりました。親子で学び・知ることができ、日常生活で、学びを活かすことができるという大きな利点が得られました。

国土緑化推進機構の研修会（活動中の安全管理）で学ぶことができ、活動中の自律と安全管理の周知、保護者へマニュアル配布と共有のあり方、および事故時の対応の確認、関連機関への協力方法など確認し責任を果たしていきます。

## 6. 考察

体験を通して、感動・共感するなど、「体」全体で自然を楽しむ姿は貴重です。

センスオブワンダーを求めて、小学生時代にたくさん経験することで、自然への感謝の気持ちや、保全する大切さを自覚し、責任ある行動ができるようになります。

また子供たちにとって必要なことは「機会を与えること」で、自ら持っている学びとる力を発揮できます。

なお、実施に当たっては様々な方々の協力なしにはできないので、今後も様々な角度からネットワークを活用・構築します。



「緑の交流会」にはたくさんの子供たちが集まりました！